

令和6年1月29日
総合教育センター大研修室
午前10時～正午

令和5年度 第2回葛飾区特別支援教育推進委員会 次第

1 開会

2 委員紹介

資料1

3 議題

(1) 葛飾区特別支援教育に関する事業について

資料2

(2) 葛飾区特別支援教育に関する研修について

資料3

(3) 令和6年度 葛飾区特別支援教育推進委員会について

資料4

4 その他

5 閉会

【資料】

- 資料1 令和5年度 葛飾区特別支援教育推進委員会名簿
- 資料2 令和5年度 葛飾区特別支援教育事業の取組状況
- 資料3 葛飾区特別支援教育に関する研修について
- 資料4 令和6年度 葛飾区特別支援教育推進委員会の年間予定

令和5年度 葛飾区特別支援教育推進委員会名簿

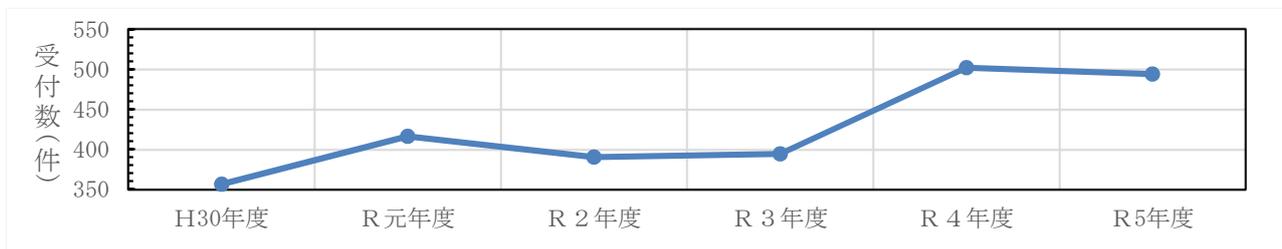
	所属	職位	氏名
委員長	葛飾区教育委員会事務局	学校教育担当部長	佐々木 健二郎
副委員長	聖徳大学	教授	河村 久
委員	都立よつぎ療育園	園長	玉木 久光
委員	のぞみ学園かめあり	園長	早川 薫
委員	私立幼稚園連合会	熊野幼稚園長	千島 淳子
委員	私立保育園連盟	認定こども園すなはら園長	高橋 広美
委員	私立保育園経営者協議会	奥戸保育園長	高橋 龍晟
委員	私立学童保育クラブ連盟	葛飾福祉館理事長	大高 幹
委員	葛飾区立小学校長会	梅田小学校長	折本 昭一
委員	葛飾区立中学校長会	新宿中学校長	遠藤 哲也
委員	都立葛飾ろう学校	校長	姫野 滋子
委員	都立葛飾盲学校	校長	岩下 桂郎
委員	都立水元小合学園	校長	米谷 一雄
委員	都立水元特別支援学校	校長	村上 卓郎
委員	都立葛飾特別支援学校	校長	村山 大介
委員	葛飾区福祉部障害者施設課	課長	山岸 健司
委員	葛飾区子育て支援部子育て施設支援課	課長	金保 洋一郎
委員	葛飾区子育て支援部保育課	課長	中安 祥之
委員	葛飾区子育て支援部子ども・子育て計画担当課	課長	羽佐田 浩介
委員	葛飾区児童相談部子ども家庭支援課	課長	富里 友季子
委員	葛飾区教育委員会事務局学務課	課長	羽田 顕
委員	葛飾区教育委員会事務局指導室	室長	谷合 みやこ

事務局	葛飾区教育委員会事務局学校教育支援担当課	課長	大川 千章
事務局	葛飾区教育委員会事務局指導室	統括指導主事	青木 大輔
事務局	葛飾区教育委員会事務局指導室特別支援教育係	係長	仲 はる子
事務局	葛飾区教育委員会事務局指導室総合教育センター担当係	係長	村上 貴寛

令和5年度 葛飾区特別支援教育事業の取組状況

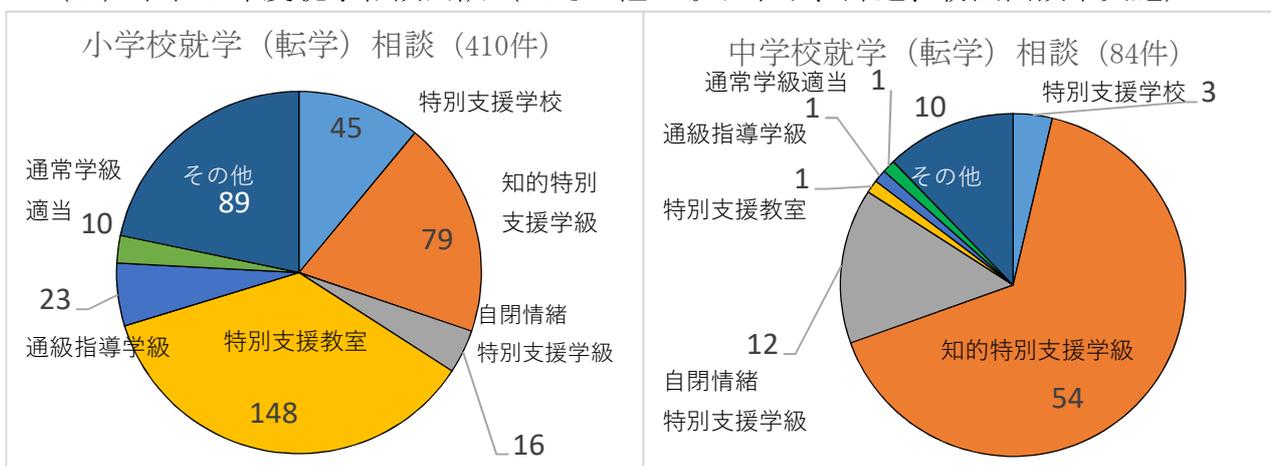
1 就学相談について

(1) 就学相談受付数（令和5年度は令和5年12月1日時点）

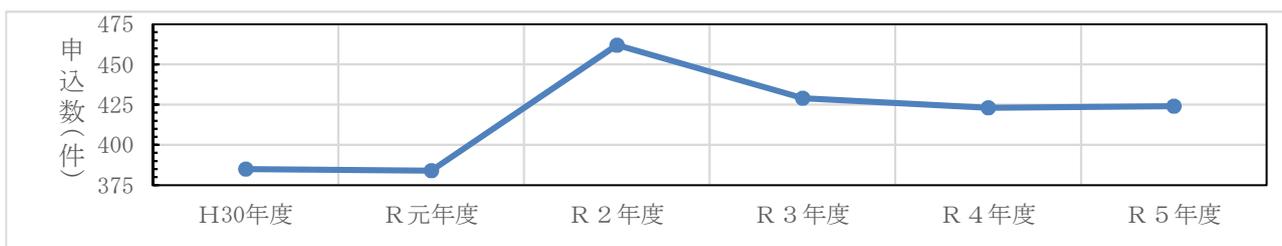


	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
受付数(件)	356	416	390	394	502	494

(2) 令和5年度就学相談内訳（※その他：取り下げ、辞退、初回面談未実施）



(3) 引き継ぎ会申込数（令和5年度は令和5年12月1日時点）



	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
申込数(件)	385	384	462	429	423	424

(4) 令和5年度の現状及び課題

①現状 ▶例年通り実施

▶受付数は令和4年度とほぼ同様

②課題 ▶相談会において専門的な助言ができる新たな専門職の配置が必要である。

▶相談会の総括は、責任ある立場の職員が行う必要がある。

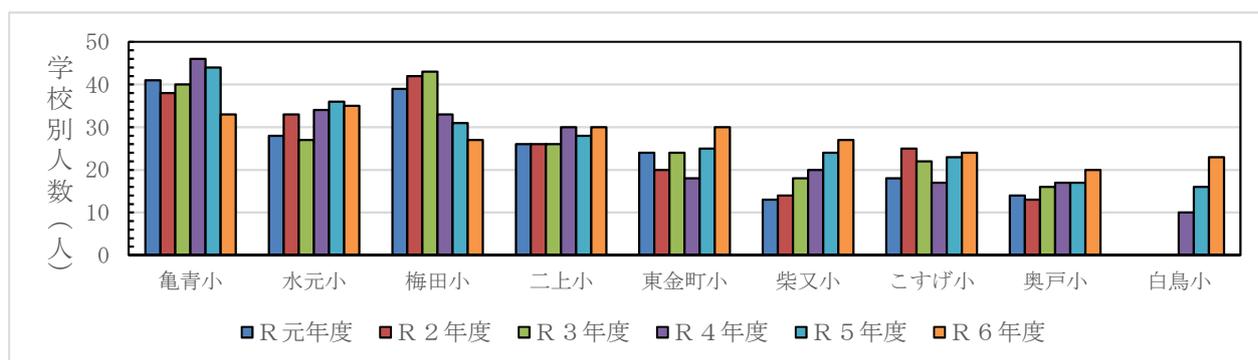
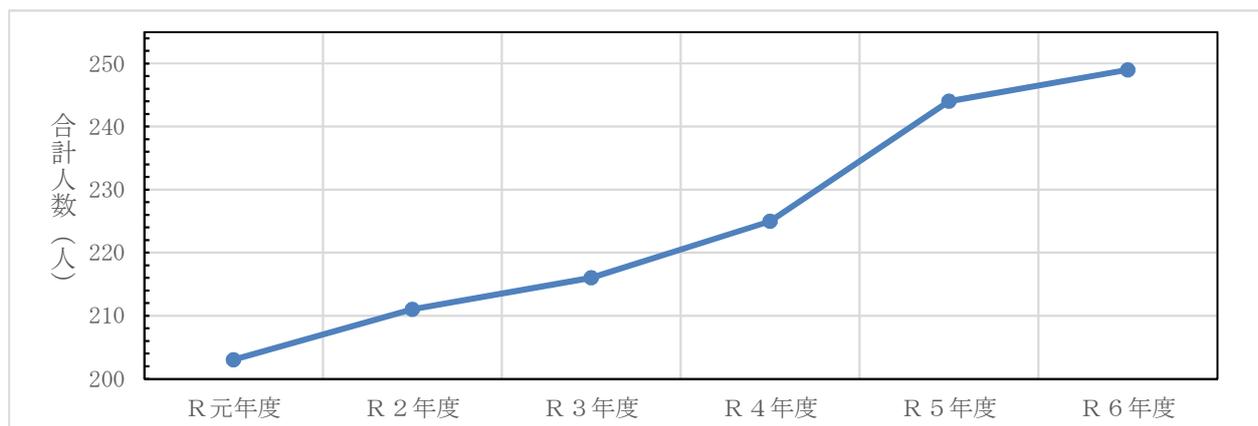
(5) 今後の方向性

▶新たな専門職配置の必要性について、検討する。

▶令和6年度から、特別支援教室相談会の総括は、これまでの巡回指導教員から拠点校の校長が中心に実施する方法へ変更して実施する。

2 知的障害特別支援学級について

(1) 小学校児童数（各年度4月7日時点、令和6年度は申込数）

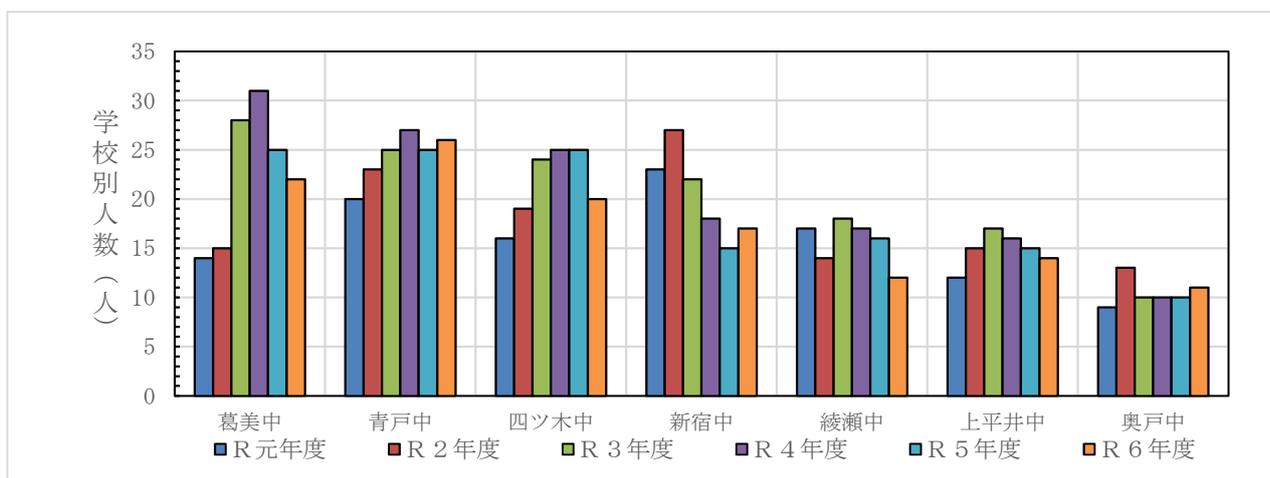
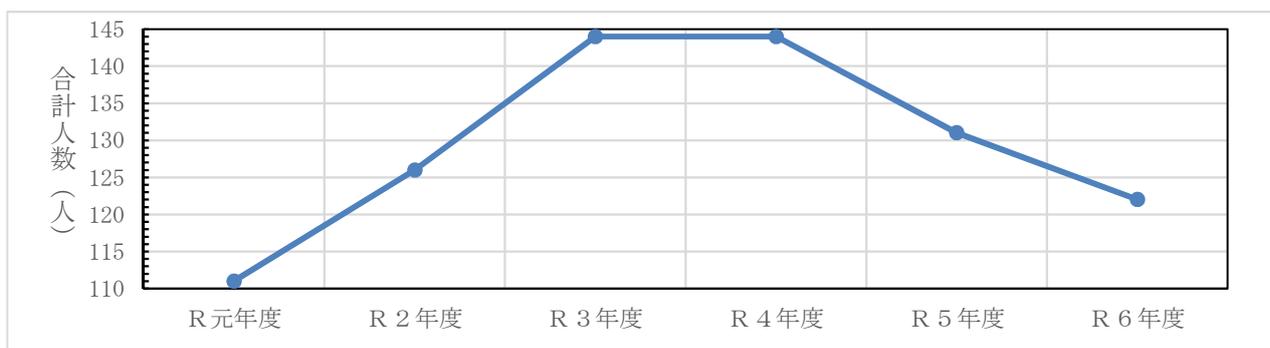


	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
亀青小	41	38	40	46	44	33
水元小	28	33	27	34	36	35
梅田小	39	42	43	33	31	27
二上小	26	26	26	30	28	30
東金町小	24	20	24	18	25	30
柴又小	13	14	18	20	24	27
こすげ小	18	25	22	17	24	24
奥戸小	14	13	16	17	17	20
白鳥小	-	-	-	10	16	23
合計(人)	203	211	216	225	244	249

参考：R6年度 小学校学年別申込状況

	亀青小	水元小	梅田小	二上小	東金町小	柴又小	こすげ小	奥戸小	白鳥小	合計
1年生	3	9	2	5	2	5	6	2	6	40
2年生	5	2	1	2	7	6	5	1	4	33
3年生	3	9	1	6	2	4	1	6	3	35
4年生	9	8	9	3	7	5	2	5	5	53
5年生	6	5	6	7	7	5	4	4	2	46
6年生	7	2	8	7	5	2	6	2	3	42
合計(人)	33	35	27	30	30	27	24	20	23	249
学級数	5	5	4	4	4	4	3	3	3	35

(2) 中学校生徒数（各年度4月7日時点、令和6年度は申込数）



	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
葛美中	14	15	28	31	25	22
青戸中	20	23	25	27	25	26
四ツ木中	16	19	24	25	25	20
新宿中	23	27	22	18	15	17
綾瀬中	17	14	18	17	16	12
上平井中	12	15	17	16	15	14
奥戸中	9	13	10	10	10	11
合計(人)	111	126	144	144	131	122

参考：令和6年度 中学校学年別申込状況

	葛美中	青戸中	四ツ木中	新宿中	綾瀬中	上平井中	奥戸中	合計
1年生	6	12	3	6	4	4	3	38
2年生	9	7	4	7	2	6	4	39
3年生	7	7	13	4	6	4	4	45
合計(人)	22	26	20	17	12	14	11	122
学級数	3	4	3	2	2	2	2	18

(3) 令和5年度の現状及び課題

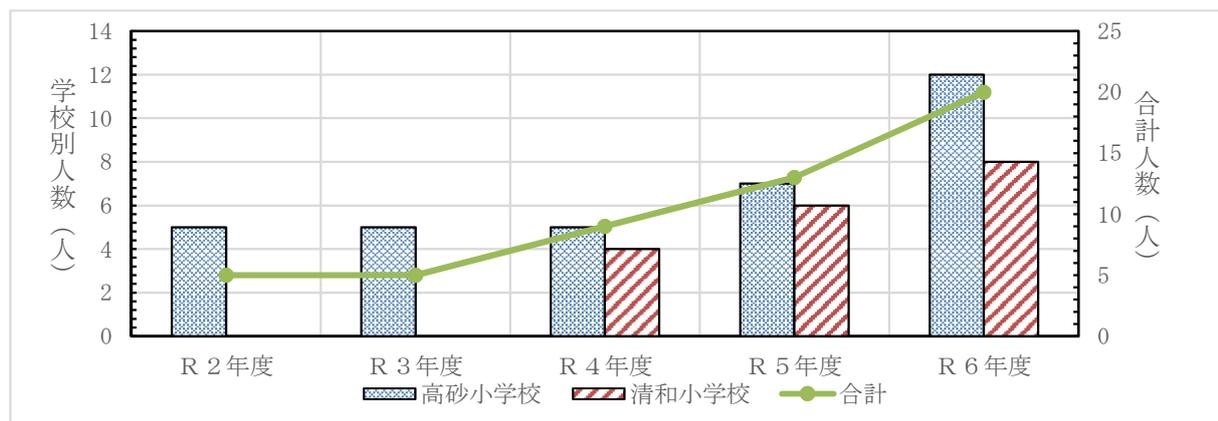
- ①現状
 - ▶小学校の在籍者数は増加傾向にあるが、令和4年度に白鳥小学校に特別支援学級を設置してから、学校ごとの在籍者数は平準化している。
 - ▶中学校の在籍者数は令和4年度から減少している。
 - ▶特別支援学級の連合行事について、見直しを行った。
- ②課題
 - ▶特別支援学級の連合行事を見直すにあたり、通常学級との交流及び共同学習の実施方法を検討するとともに、教科学習の充実について検討する必要がある。

(4) 今後の方向性

- ▶引き続き、特別支援学級在籍者数の適正化を図っていく。
- ▶連合行事を見直し、令和7年度からおおむね各学校の行事に参加する。なお、介助員等の人的な配置については、引き続き検討する。
- ▶特別支援学級の教科学習充実にあたり、使用教科書の検討を図っていく。

3 自閉症・情緒障害特別支援学級について

(1) 小学校児童数（各年度4月7日時点、令和6年度は申込数）



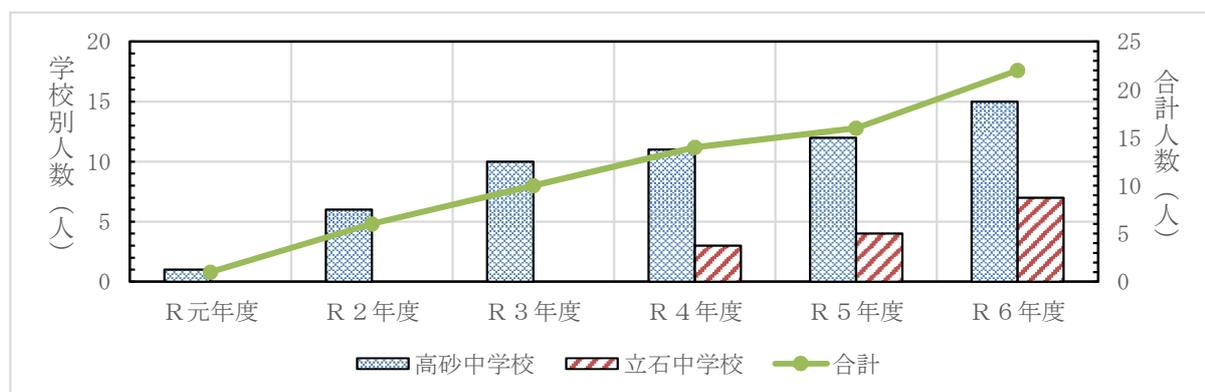
【高砂小学校】 学年別児童数

【清和小学校】 学年別児童数 (R 4年度設置)

	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
2年生	0	0	0	0	0
3年生	1	0	1	0	1
4年生	0	1	1	3	3
5年生	3	1	2	0	6
6年生	1	3	1	4	2
合計(人)	5	5	5	7	12

	R 4年度	R 5年度	R 6年度
2年生	0	0	0
3年生	2	1	0
4年生	1	3	3
5年生	0	1	3
6年生	1	1	2
合計(人)	4	6	8

(2) 中学校生徒数（各年度4月7日時点、令和6年度は申込数）



【高砂中学校】 学年別児童数

【立石中学校】 学年別児童数 (R 4年度設置)

	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度
1年生	2	5	4	3	7
2年生	3	2	5	4	4
3年生	1	3	2	5	4
合計(人)	6	10	11	12	15
学級数	1	2	2	2	2

	R 4年度	R 5年度	R 6年度
1年生	3	1	3
2年生	0	3	1
3年生	0	0	3
合計(人)	3	4	7
学級数	1	1	1

参考：自閉症・情緒障害特別支援学級 児童及び生徒数（令和6年度は申込数）

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学校児童数(人)		5	5	9	13	20
中学校生徒数(人)	1	6	10	14	16	22

(3) 令和5年度の現状及び課題

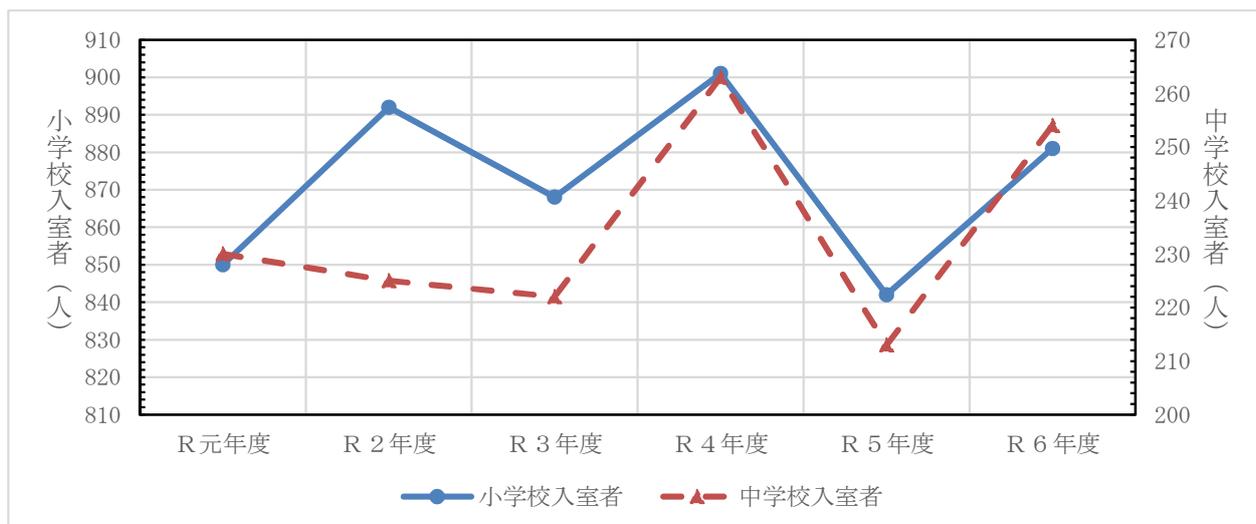
- ①現状 ▶就学相談申込前の見学会を実施
 - ▶在籍者数は年々増加している。
- ②課題 ▶教員の安定的な確保と専門性の向上が課題である。

(4) 今後の方向性

- ▶教員の研修内容を見直し、専門性向上を図る。
- ▶教員の適正配置人数を引き続き検討する。

4 特別支援教室について

(1) 小学校、中学校入室者数（各年度4月7日時点、令和6年度は申込数）



	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学校入室者数(人)	850	892	868	901	842	881
中学校入室者数(人)	230	225	222	263	213	254

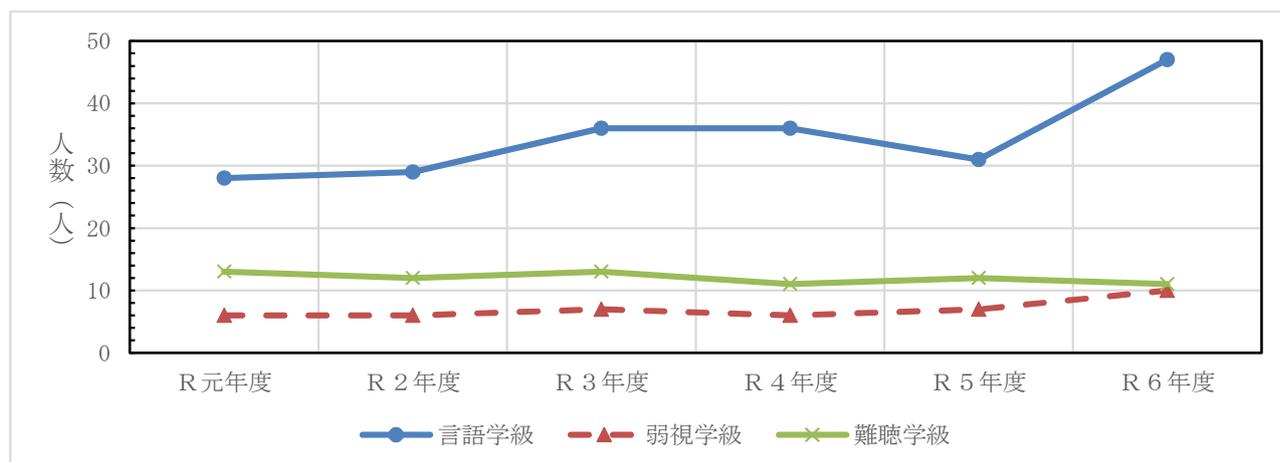
(2) 令和5年度の現状及び課題

- ①現状 ▶申請手続のデジタル化を検討し、様式の改正を行った。
▶入室者数は年度による上下はあるもののほぼ横ばいである。
- ②課題 ▶入室者についての、小学校から中学校への引継ぎが課題である。

(3) 今後の方向性

- ▶令和6年度から、改正した申請書類を使用する。申請手続きのデジタル化は引き続き検討する。
- ▶特別支援心理コーディネーターが小学校を訪問し、作成した書類を中学校へ送付する制度を廃止し、巡回指導教員同士の直接の引継体制を整備する。

5 通級指導学級について



(各年度4月7日時点、令和6年度は申込数)

(1) 言語学級 (ことばの教室) 児童数 設置校：本田小学校

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
1年生	1	3	6	3	2	7
2年生	11	10	10	7	12	13
3年生	9	6	7	11	4	13
4年生	3	5	6	7	5	4
5年生	3	3	4	4	6	4
6年生	1	2	3	4	2	6
合計(人)	28	29	36	36	31	47

(2) 弱視学級児童・生徒数 設置校：住吉小学校、立石中学校

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
住吉小学校	5	4	5	4	6	8
立石中学校	1	2	2	2	1	2
合計(人)	6	6	7	6	7	10

(3) 難聴学級児童・生徒数 設置校：青戸小学校、青戸中学校

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
青戸小学校	9	8	9	9	9	8
青戸中学校	4	4	4	2	3	3
合計(人)	13	12	13	11	12	11

(4) 令和5年度の現状及び課題

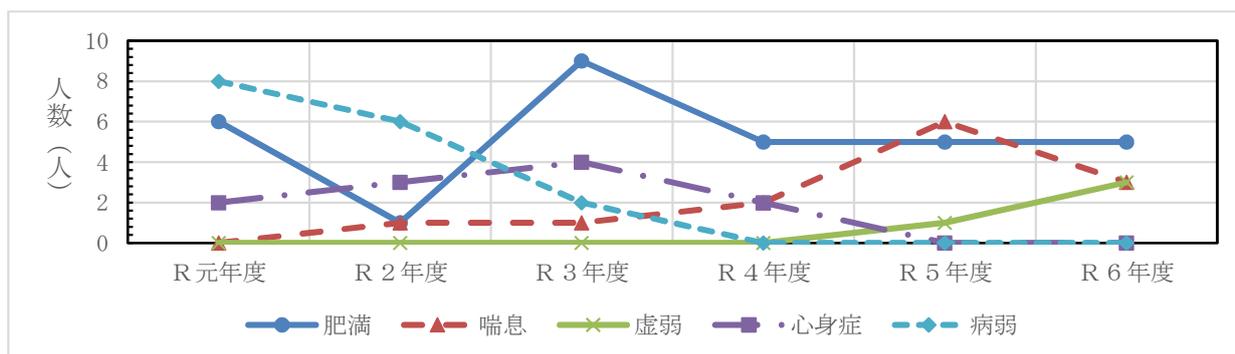
- ①現状 ▶言語学級の児童数が増加している。
▶弱視・難聴学級の児童・生徒数はほぼ横ばいである。
- ②課題 ▶言語学級の増設等について検討が必要である。
▶言語学級について、引き続き、入級及び退級の基準を検討する必要がある。

(5) 今後の方向性

- ▶令和8年度開設に向けて言語学級を区内小学校に増設する。
▶言語学級の入級及び退級手順を整理する。

6 区立病弱特別支援学校 保田しおさい学校について

(1) 児童・生徒数（各年度4月1日時点、令和6年度は申込数）



	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
肥満	6	1	9	5	5	5
喘息	0	1	1	2	6	3
虚弱	0	0	0	0	1	3
心身症	2	3	4	2	0	0
病弱	8	6	2	0	0	0
合計(人)	16	11	16	9	12	11

(2) 令和5年度の現状及び課題

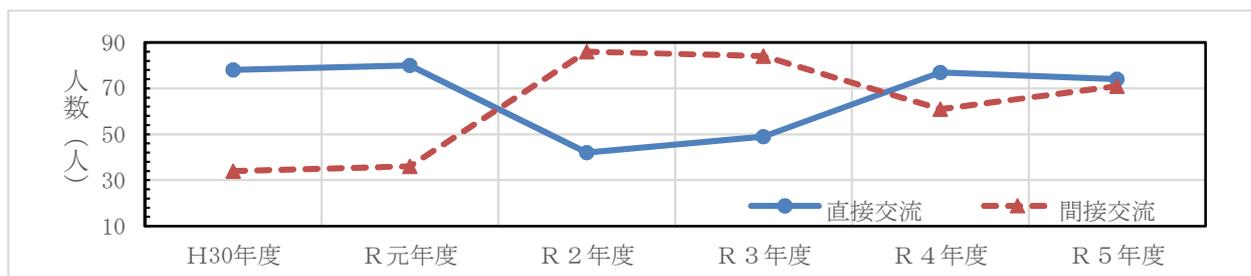
- ①現状
 - ▶申請方法を整理しリーフレットを刷新した。
 - ▶見学会及び相談会の実施方法を変更した。
 - ▶入校者数はほぼ横ばいである。
- ②課題
 - ▶見学会及び相談会の実施時期について引き続き検討が必要である。

(3) 今後の方向性

- ▶令和6年度の見学会及び相談会については、新学期から入校できる時期に実施する。

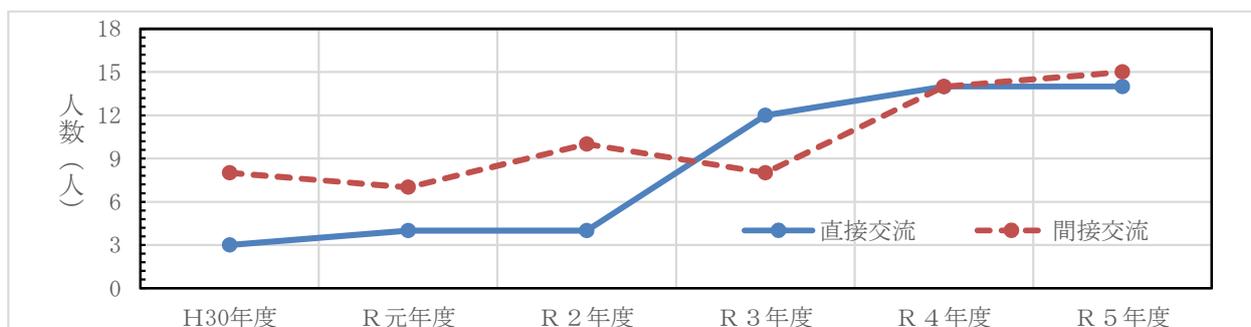
7 副籍交流について

(1) 小学校児童数（各年度末時点、令和5年度は令和5年12月1日時点）



	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
直接交流	78	80	42	49	77	74
間接交流	34	36	86	84	61	71
合計(人)	112	116	128	133	138	145

(2) 中学校生徒数（各年度末時点、令和5年度は令和5年12月1日時点）



	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
直接交流	3	4	4	12	14	14
間接交流	8	7	10	8	14	15
合計(人)	11	11	14	20	28	29

(3) 令和5年度の現状及び課題

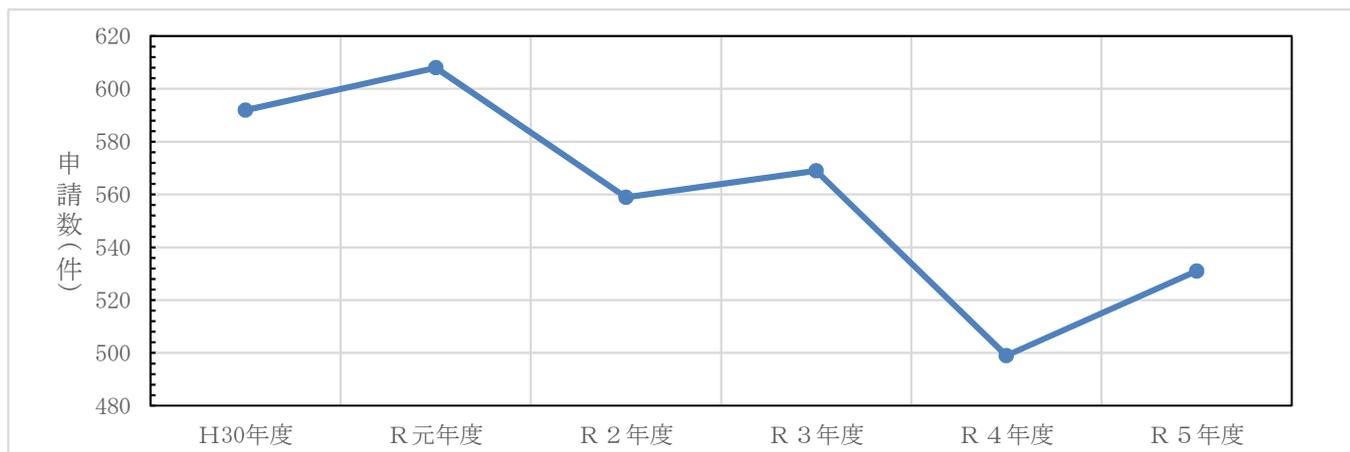
- ①現状 ▶令和4年度とほぼ同数の交流を実施
 ▶都立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターによる研修を2回実施し、副籍交流について区立小・中学校のさらなる教員理解を図った。
- ②課題 ▶有意義な副籍交流となるように、交流内容を検討する必要がある。

(4) 今後の方向性

- ▶都立特別支援学校との連携をより深める。

8 知能検査、アイリスシート（学齢期版支援シート）について

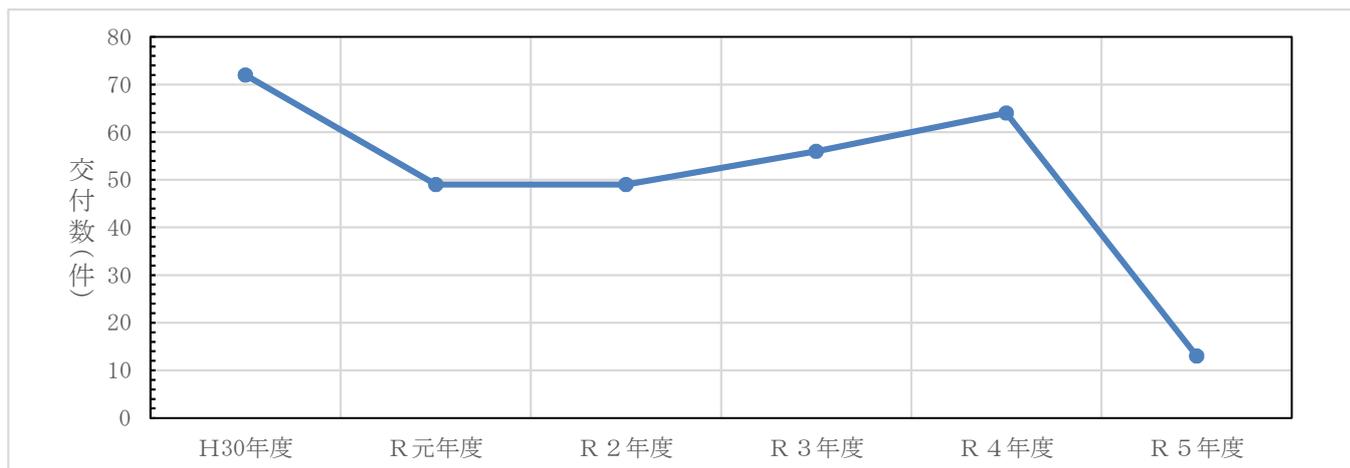
(1) 知能検査申請数（各年度末時点、令和5年度は令和5年12月末時点）



年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
申請数(件)	593	608	559	569	499	531

(2) アイリスシート学齢期版支援シート交付数

(各年度末時点、令和5年度は令和5年12月末時点)



年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
交付数(件)	72	49	49	56	64	13

(3) 令和5年度の現状及び課題

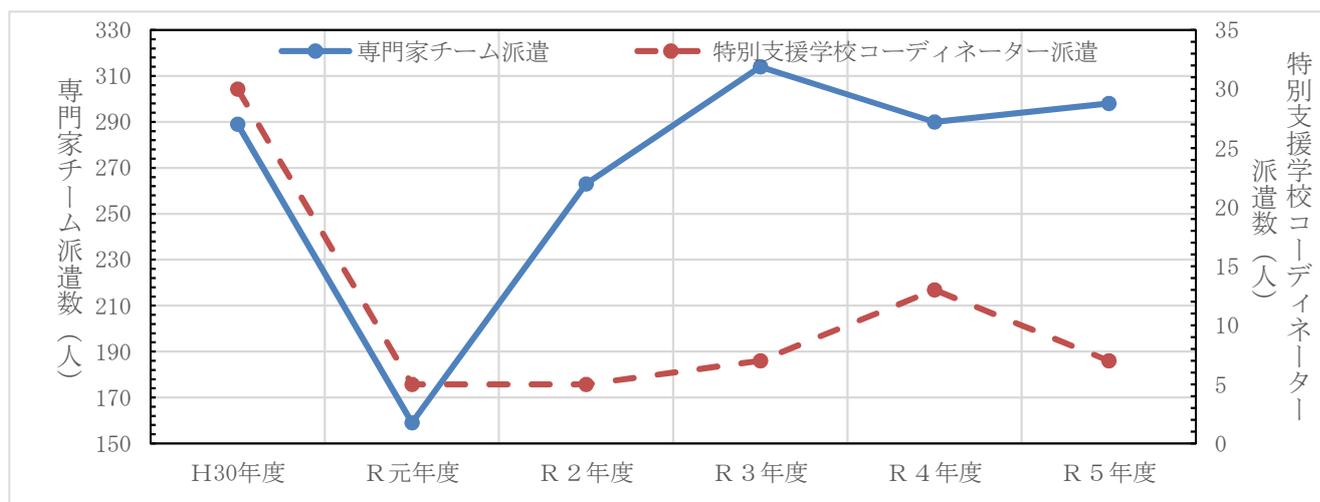
- ①現状
 - ▶知能検査の申請数は減少傾向にあったが、前年度よりは増加
 - ▶アイリスシートの交付数は大幅に減少
- ②課題
 - ▶アイリスシートの周知方法が課題である。
 - ▶アイリスシートのあり方について、検討が必要である。

(4) 今後の方向性

- ▶知能検査を安定的に実施する。
- ▶アイリスシートの周知方法や利便性について検討する。
- ▶アイリスシートの内容について検討する。

9 専門家チーム派遣、支援会議実績について

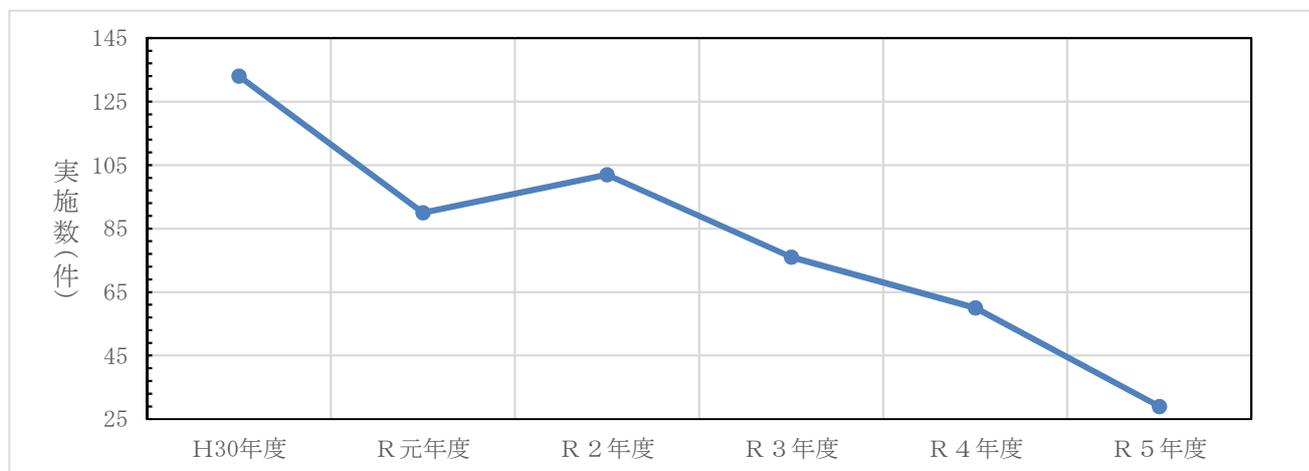
(1) 専門家チーム派遣数（各年度末時点、令和5年度は令和5年12月1日時点）



	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
専門家チーム派遣数(人)	289	159	263	314	290	298
特別支援学校コーディネーター派遣数(人)	30	5	5	7	13	7

(2) 支援会議実施数（ケース会議含む）

（各年度末時点、令和5年度は令和5年12月1日時点）



	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
実施数(件)	133	90	102	76	60	29

(3) 令和5年度の現状及び課題

- ①現状 ▶専門家チーム派遣数はほぼ横ばいである。
▶支援会議の件数は減少している。
- ②課題 ▶専門的な助言ができる新たな専門職の配置が必要である。

(4) 今後の方向性

- ▶新たな人材の配置について、検討する。
- ▶学校に専門家チームの役割を改めて周知する。

10 医療的ケアについて

(1) 葛飾区立学校での在籍数（各年度4月1日時点、令和6年度は申込数）

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
幼稚園	0	0	0	1	1	0
小学校	1	2	3	3	2	3
中学校	0	0	0	0	0	1
合計(人)	1	2	3	4	3	4

(※令和6年度の医療的ケアの内訳：導尿2人、気管切開によるたんの吸引2人)

(2) 令和5年度の現状及び課題

- ①現状 ▶令和5年度から学校看護師に加えて、派遣看護師が医療的ケアに従事
- ②課題 ▶看護師の安定的な確保が課題である。
 - ▶身体介助を行う生活スキルアップ指導補助員の研修方法を引き続き検討する必要がある。

(3) 今後の方向性

- ▶令和6年度も引き続き、派遣看護師の活用を図り、体制の充実を図る。
- ▶生活スキルアップ指導補助員の研修方法を検討する。

11 ペアレントトレーニングについて

(1) 実施内容

	R4年度	R5年度
定員(人)	6	6
回数(回)	1	2
応募者数(人)	30	28
倍率	5.0	2.3

(2) 令和5年度の現状及び課題

- ①現状 ▶講座の回数を拡大して実施
 - ▶令和4年度とほぼ同数の応募者数であった。
- ②課題 ▶応募者数に応じた受講者数の拡大が必要である。

(3) 今後の方向性

- ▶さらに参加者数を拡大して実施する。

12 多層指導モデル（デジタル版 MIM）について

（1）令和 5 年度の現状及び課題

- ①現状 ▶全ての小学校の児童に拡大して実施した。
 - ▶MIM 支援員を各小学校へ派遣し、デジタル版 MIM の活用方法を説明した。
- ②課題 ▶デジタル版 MIM の指導及び活用についてさらなる充実を図る必要がある。
 - ▶設定やつながりにくさが課題である。

（2）今後の方向性

- ▶MIM 研修会を巡回指導教員及び特別支援教育コーディネーター向けに引き続き実施し、MIM 指導の充実を図っていく。
- ▶MIM 支援員は令和 5 年度をもって廃止する。
- ▶教員がデジタル版 MIM を活用するにあたり、ICT 支援員との連携を深める。

13 葛飾区特別支援教育検討部会の開催

（1）特別支援教育専門性向上検討部会

第 1 回：令和 5 年 7 月 26 日（水）午後 1 時～午後 2 時

第 2 回：令和 5 年 11 月 15 日（水）午前 10 時～午前 11 時

会 場：いずれも総合教育センター

（2）特別支援教育環境改善検討部会

第 1 回：令和 5 年 8 月 30 日（水）午前 11 時～正午

第 2 回：令和 5 年 12 月 13 日（水）午前 10 時～午前 11 時

第 2 回は医療的ケア判定審査会として実施

会 場：いずれも都立水元小合学園

葛飾区特別支援教育に関する研修について

目的

特別支援教育の充実のため、研修内容の見直しを図ることで、教職員が研修を通じて、特別支援教育の基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、専門性を向上させるようにする。

令和4年度課題

- 特別支援学級や巡回指導教員、特別支援教育コーディネーターは、特別支援教育の重要な担い手であり、その専門性が校内の他の教員に与える影響も極めて大きい。このため、専門的な研修の受講等により、研修を通し、専門性の向上を図ることが必要である。
- 東京都立特別支援学校と連携し、特別支援学校のセンター的機能を生かし、研修内容を充実する必要がある。

令和5年度研修

1 巡回指導教員研修（対象：拠点校巡回指導教員）

実施月日	内容	対象者数	受講実績
7月14日(金)	・小学校事例報告 ・中学校事例報告 ・事例検討、グループ協議	30人	54人
12月19日(火)	・小学校事例報告 ・中学校事例報告 ・事例検討、グループ協議	30人	45人

2 特別支援教育コーディネーター研修（対象：特別支援教育コーディネーター）

実施月日	研修内容・講師等	対象者数	受講実績
4月17日(月)	・令和4年度葛飾区の特別支援教育の取組について ・葛飾区版ガイドラインについて ・就学相談について ・自閉症、情緒障害特別支援学級相談会等の流れについて ・副籍について（水元特別支援学校コーディネーター） ・見え方相談会について（葛飾盲学校コーディネーター）	76人	81人
9月11日(月)	・副籍交流の実践（水元特別支援学校コーディネーター） ・通常学級における見え方に配慮が必要な児童生徒の支援 （葛飾盲学校コーディネーター）	76人	76人

3 特別支援教育基礎研修会

（対象：校内における特別支援教育の中心的な役割を担っている教諭・主任教諭）

実施月日	内容	対象者数	受講実績
7月7日(火)	・発達障害当事者からみた特別支援教育 ～子供たちに寄り添った指導・支援～ 【講師】NPO法人東京都自閉症協会 綿貫 愛子 氏	74人	75人
10月13日(金)	・児童・生徒の特性に応じた指導・支援の工夫 【講師】東京都教職員研修センター 篠崎 友誉 氏	74人	68人

4 特別支援学級教員研修

（対象：知的障害特別支援学級 教諭・主任教諭・主幹教諭）

実施月日	内容	対象校数	受講実績
7月28日(金)	・特別支援学級教員の資質向上について① 【講師】東京都教職員研修センター 篠崎 友誉 氏	16校	13校
11月20日(月)	・特別支援学級教員の資質向上について② 【講師】東京都教職員研修センター 篠崎 友誉 氏	16校	12校

5 自閉症・情緒障害特別支援学級教員研修

(対象：自閉症・情緒障害特別支援学級 教諭・主任教諭・主幹教諭)

実施月日	内容	対象校数	受講実績
7月27日(木)	・情報交換会 ・自立活動の指導の観点を生かした教科指導について 【講師】中野特別支援学校 主幹教諭 日高 浩一 氏	4校	4校

6 特別支援教室専門員研修

(対象：特別支援教室専門員)

実施月日	内容	対象者数	受講実績
4月14日(金)	・特別支援教室専門員の役割について ・特別支援教室の運営ガイドラインについて ・拠点校別情報交換	74人	67人
9月4日(月)	・1学期の振り返りと改善に向けて ・拠点校別情報交換	74人	68人

7 特別支援教室教育課程編成説明会 (対象：特別支援教室教育課程編成に関わる教員)

※各校1名および特別支援教室拠点校各校1名

実施月日	内容	対象者数	受講実績
1月15日(月)	・特別支援教室教育課程編成におけるポイント ・様式2記述に関する具体的な注意点 ・特別支援教室に関する提出書類について	85人	82人

成果

- 様々な職種・職層の教職員に対して、特別支援教育に関する研修を実施することができ、専門性の向上を図ることができた。
- 東京都立特別支援学校特別支援教育コーディネーターに講師をしていただくことで、研修内容の充実を図るとともに、連携に関する理解を深めることができた。
- 令和4年度に新設した特別支援教室の教育課程編成に関する研修を通して、各学校が対象児童・生徒の障害の状況等を的確に把握し、指導目標、指導方針、指導内容を十分理解した上で、作成できるようになった。

課題

- 今後も様々な職種・職層の教職員が研修する機会を確保し、特別支援教育に関する専門性の向上を図っていく必要がある。
- 東京都立特別支援学校と連携し、特別支援学校のセンター的機能を生かし、研修内容を充実させる必要がある。

令和6年度の方向性

- 令和5年度に引き続き、様々な職種・職層の教職員に対して、特別支援教育に関する研修を実施し、専門性の向上を図っていく。また、新設される「クラス支援員」に対する研修を実施し、特別な配慮が必要な児童・生徒への関わり方について理解を深められるようにする。
- 東京都立特別支援学校との連携を深めるため、葛飾区立小・中学校の教員が、東京都立特別支援学校を訪問し、授業を参観したり、特別支援学校の教員と情報交換したりできるような研修会を実施する。

令和6年度 葛飾区特別支援教育推進委員会の年間予定

	特別支援教育 推進委員会	特別支援教育 専門性向上検討部会	特別支援教育 環境改善検討部会
4			
5			
6	第1回推進委員会 (令和6年6月開催予定) ○令和5年度特別支援教育 事業の取組状況 ○特別支援教育に関する研 修について 他		
7		第1回部会 (令和6年7月開催予定) ○組織・年間計画 ○検討・協議	
8			第1回部会 (令和6年8月開催予定) ○組織・年間計画 ○検討・協議
9			
10			
11		第2回部会 (令和6年11月開催予定) ○進捗状況報告 ○令和7年度に向けて	
12			第2回部会及び医療的ケア 判定審査会 (令和6年12月開催予定) ○進捗状況報告 ○令和7年度に向けて
1	第2回推進委員会 (令和7年1月開催予定) ○各部会報告 ○令和6年度の取組状況 他		
2			
3			

令和5年度 第2回 葛飾区特別支援教育推進委員会議事録（要旨）

開催日時

令和6年1月29日（月）午前10時から午前12時

開催場所

葛飾区立総合教育センター大研修室1

協議・報告事項

- (1) 葛飾区特別支援教育に関する事業について
- (2) 葛飾区特別支援教育に関する研修について
- (3) 令和6年度 葛飾区特別支援教育推進委員会について

出席委員（20名）

佐々木委員長、河村副委員長、玉木委員、早川委員、千島委員、高橋（龍）委員、大高委員、折本委員、遠藤委員、姫野委員、村上委員、村山委員、山岸委員、金保委員、中安委員、羽佐田委員、富里委員、羽田委員、谷合委員、牧田氏（高橋（広）委員の代理）

欠席委員（2名）

岩下委員、米谷委員

配付資料

- | | |
|-----|---------------------------|
| 資料1 | 令和5年度 葛飾区特別支援教育推進委員会名簿 |
| 資料2 | 令和5年度 葛飾区特別支援教育事業の取組状況 |
| 資料3 | 葛飾区特別支援教育に関する研修について |
| 資料4 | 令和6年度 葛飾区特別支援教育推進委員会の年間予定 |

1 開会

<委員長> 開会のあいさつ

2 議題

- (1) 葛飾区特別支援教育に関する事業について

<事務局>

資料2の令和5年度葛飾区特別支援教育事業の取組状況について一括しての説明

<委員長>

事務局から、議題（1）として、資料2の令和5年度葛飾区特別支援教育事業の取組状況についての説明があった。ただいまの報告について、ご意見ご質問等あればお願いしたい。

<委員>

医療的ケアについて、看護師の安定的な確保が課題とあるが、工夫していることがあれば教えてほしい。また、派遣看護師の募集について仕組みを教えてほしい。

<事務局>

昨年度、看護師が配置できず、保護者の協力を得ながら医療的ケアを実施した。今年度からは派遣看護師を導入した。看護師専門の人材派遣会社と契約を結び、今年度は週に1回配置した。

初回は、教育委員会が同席し、引継ぎを行った上で実施したが、1年間問題なく配置できた。次年度は拡大して週5日配置する予定。看護師の体調不良時にも対応出来るよう2名のどちらかが対応できる体制で実施した。

<委員長>

その他、ご意見ご質問等あればお願いしたい。

<委員>

2点確認したいことがある。1点目は、知的障害特別支援学級の児童・生徒数について、小学校の在籍数は年々増加しているのに対して、中学校の在籍数は減少している。小学校で特別支援学級だった児童が中学校に入学するにあたり、どのような進路をとることが多いか聞きたい。

2点目は、知能検査について。昨年度一度お聞きした際、申込が減っており検査待ちの方がいるわけでないという回答いただいたが、今年度も私の施設に来ている小学生のお子さんも教育センターもしくは学校から申込を断られた、と言っている方が3名いる。区内で検査を希望して断られている方がいるのが現状だと思う。小学校によって検査の申込を積極的にやっている学校と、保護者が学校に問合せしても申込できないと言われる学校があり、学校あるいは担任によって認識に差がある。どの程度教育センターで把握されているか。

<事務局>

まず、中学校の知的障害特別支援学級への入級についてだが、大体小学校でも知的障害の固定学級に在籍し、そのまま中学校の固定学級に入級される生徒が多い。入級生徒が減っている状況について、知的な課題以外の、例えば自閉症の傾向がある生徒も少なからず在籍している。もしくは、知的な課題が少ないボーダーの生徒は、保護者からの要望で通常級に戻りたいと転学を希望する場合も少なからずある。入級者数自体はそれほど変化はないが、通常級に戻る生徒も少なからずいると考えている。

<委員>

通常級への転学者がいるという理由が一番多いということによろしいか。

<事務局>

はい、そのように捉えている。

次に、知能検査の数についてだが、今年度の検査数は、昨年度より若干増えている。検査を断られた話があったということだが、申請があったら、学校の支援に繋がる申請かどうかを受理会議を実施して判断している。もちろん、学校の支援が必要だということで申請があるので、受理となる場合が多いが、不受理になる場合と取り下げの場合がある。不受理の場合は、学校や保護者からの主訴の内容から、検査ではなく他の支援が適切だと判断したもの等がある。例えば学習面の課題はなく、行動面の課題でどういうことができるか検討し、スクールカウンセラーや専門家チーム派遣の支援に繋がったという場合もある。あくまで学校の支援につなげるということなので、必ずしも検査を受ける必要がないという場合もある。また、取り下げの場合は、特別支援教室利用申請のために検査を申請したが、以前の検査から時間が経っていないため、以前の検査結果が利用できたため、新たに検査を実施しない場合もある。学校で校内委員会を開いて、申請しないという判断をしている場合もある。

<委員>

ありがとうございます。おそらく、行動面に課題のあるお子さんというのは、学習の習熟度に問題がないことが前提であれば、検査をしないことがあるかもしれないが、その他のお子さんに関して、学校の支援に繋がれないことがあるケースとはどういうことか。断られているお子さんというのは、福祉施設に通って、支援が必要なお子さんであって、校内で支援が必要ないとい

うのはありえない。アセスメントを取らないということで、根拠のない支援というのは絶対にありえないと思う。

<事務局>

根拠というところで、アセスメントなくしての支援はないということだが、現状の中でまず検査ではなく、何らかの別の手立てはないか検討し、今できることを行っていく。

<委員>

ありがとうございます。他の場所でも、随所に専門職の配置が必要であるということは、特別支援教育ができる体制を整えていくということが、今まだ足りていないということだと思う。検査の受け入れをもう少し増やして、検査を取った上で、やはりこの子は支援がそんなに必要なかったという根拠も必要なのではないか。行動観察だけの見立てでこの子の検査は必要ないという判断には繋がらない。検査を取った上でやはり必要なかったという判断に使うものだと思う。保護者の方も困っているという意味で検査を申し込んでいるので、もう少し検査数を拡大していただけるとありがたい。

<委員長>

ありがとうございました。いま、委員から検査のあり方についてのご意見があった。今のご意見を踏まえた上で、事務局の方も検討をお願いしたい。またもう1点、委員から、学校の校長先生又は担任の先生によって、認識の差があるのではないかとのご指摘があったが、そのことについて事務局がどう認識しているのか回答をお願いしたい。

<事務局>

学校は、発達障害のあるお子さんの対応に苦慮している。お子さん一人一人に対応するために、先ほどお話を頂いた専門職の配置として、教職や心理職が学校に関わる、専門家チーム派遣がある。また、作業療法士などの専門職が、学校の教員にどのような手立てができるか、どのような支援ができるか、ということ話を話す機会が必要ではないかと考えている。研修を実施しているが、集合研修だけではなくて、例えば、実際に学校でお子さんを見て、こういう対応が出来るのではないかとか、特別支援学校の方にお子さんの支援の様子を見ていただくとか、様々な支援をいただき、対応の方向性を検討している。教員の対応の差は、研修の形でフォローできないか検討中である。

<委員長>

その他、ご質問ご意見等があればお願いしたい。

<委員>

15 ページの医療的ケアについてだが、この幼稚園というのは区立だと思うが、区内はほとんどが私立になるので、ここは私立も集計した方がよいかなと。可能であれば就学前教育ということで、保育園も含めてこの統計に入れていくと、いずれ小学生になるお子さんたちがどの程度、医療的ケア児がいるのか把握するのに役立つと感じている。当園では、今年度の秋から在籍していたお子さんが、酸素療法が必要になって医療的ケアを行うことになった。その際にぶつかる壁が多く、公立の保育園では酸素療法は受け入れていないなど、参考になるものがなかったので、今回のような表に数で反映されれば今後何かあった時に参考にしやすいと感じた。

またもう1点、8 ページの課題と今後の方向性にある教員の研修内容について、教員の研修内容がどのようなもので、今後どのようにしていくのかを参考までに教えていただきたい。

<事務局>

医療的ケアについて。私立幼稚園のケース数は含まれていない。来年度、新1年生のお子さんで私立保育園から入学する気管切開のお子さんが医療的ケアを実施することになる。就学相談で

初めて医療的ケアを受けていることを知るという場面が多い中で、連携の必要性を感じているが、今保育課でも医療的ケアが始まり、保育園で医療的ケアを受けているお子さんの情報をいただく機会も出てきている。出来るだけ事前に情報があると、連携がしやすくなるというのは必要なことなので、引き続き小学校でもスムーズに支援が受けられる体制を整えていきたい。

<事務局>

ご質問がありました研修内容については、資料3でご説明いたします。

<委員長>

ありがとうございます。その他ご意見ご質問があればお願いしたい。それでは、議題(2)の葛飾区特別支援教育に関する研修について、事務局より説明をお願いしたい。

(2) 葛飾区特別支援教育に関する研修について

<事務局>

資料2の葛飾区特別支援教育に関する研修について一括しての説明

<委員長>

資料2の報告について、ご意見ご質問等あればお願いしたい。

<委員>

自閉症・情緒障害特別支援学級の教員研修で、対象校が4校になっているが、知的の特別支援学級にも自閉症の特性を持つお子さんが多くいる。学校に訪問したり先生と連携をとらせていただいた時に、先生が一番困っている。どう支援していいかわからないというお子さんの大半が自閉的傾向が強いので、どう対応していいかわからない。せつかなので4校に絞らず、知的障害特別支援学級の先生方も、受け入れるようにするとより良いのではないかと。

<事務局>

ありがとうございました。自閉症・情緒障害特別支援学級設置校4校を対象に、令和4年度から研修を新設して夏休みに実施している。委員ご指摘のように、知的障害学級の中にも対象のお子さんがあることも考えると、研修については、自閉症・情緒障害特別支援学級の先生方は必須ですが、今後来年度に向けて、柔軟に対応が出来るよう検討していきたい。

<委員長>

その他、ご意見ご質問等はいかがか。

<委員>

令和6年度の方向性で、様々な職種・職層ということなので、是非これだけのいろいろな研修を行っているのであれば、幼稚園や保育園も含めて、就学前教育の方にも情報を流していただいて、参加ができるようにしていただくと大変ありがたい。また、このような会議に話に出てくるお子さんは、自閉症であることを保護者も認めていて、何かの枠組みに乗ってきている子がメインの話になっているかと思うが、特にこのような幼児期の子たちを預かっているところとしては、やはり課題はすごくある。支援もすごく必要だけれども、まだそこに保護者の理解がない。また、支援の仕方によっては、特別支援教室等を利用しなくてもご家庭のちょっとした工夫で過ごせる子もいる。いろいろな支援が必要になってくるという見極め途中の子もいる。そういう子たちにも何かこの会議で手を差し伸べられるような話ができるとありがたい。

また、この研修において、対象が特別支援を担当されている先生方になっていると思うが、やはり子どもたちに携わるすべての方が、基本的な部分でも学ぶ機会が必要なのではないかと感じている。是非、就学前教育の方にも何か新しい事をやるときには、情報をいただければと思っている。

<事務局>

ご意見ありがとうございました。特別支援担当の教員だけの研修ではなく、事務局としても幅広く実施するために、特別支援教室基礎研修会を昨年度から悉皆に変更した。以前は希望者のみで実施したが、参加者が10人程度で、意識の高い学校は複数人の出席という状況であった。しかし、これでは区内の教員への広がりが少ないので、どの学級にも特別な支援を必要とするお子さんがいるため、昨年度から変更した。来年度以降の研修についても、すべての教員に情報が周知できるように、研修内容を各学校に持ち帰って、学校で広げてもらえるような呼びかけをさらにしていきたいと考えている。また、幼稚園の方を対象にするかどうかは、関係機関と連携を取りながら、どのような研修であれば、来年度実施する研修に参加していただけるか、検討していきたい。

<事務局>

先ほどの、家庭での支援というところで、回答させていただきたい。ペアレントトレーニングの内容についてだが、小学1年生から3年生の特別支援教室に在籍している保護者を対象に、家庭支援として、保護者が具体的にどのようにお子さんに対応すればよいかを、ロールプレイングの形で実施した。また、課題を保護者に数多くやってもらい、報告し合いながら体感していった。6回制の講座を、限られた6名のメンバーの中で、情報共有しながら、お子さんへの対応方法について体感できるので、とても好評を得ている。家庭支援は大事であり、特別支援の一つの方法であるというところで、今後、拡大して実施していく予定で動いている。

<委員>

今の話についてだが、ペアレントトレーニングは本当にすごくいい、具体的なお子さまへの接し方を研究していくすごくいいものと思っている。この内容自体を学校の先生も受けられるとすごく意義がある。少人数で行わなければいけないので形を変えなければいけないが、具体的な子どもとの関わり方やお子さんへの態度、声のかけ方について本当に具体的な演習ができるものなので、先生方はお忙しくてまとまった時間が取れないかもしれないけど、先生たちにも体験していただくと、すごく意義があると感じたので、もしご検討いただけたらと思う。

<事務局>

貴重なご意見ありがとうございます。実際に対応の仕方など、具体的なところは、先生方も迷われている。どのようなことができるか、検討していきたい。

<委員長>

その他、ご意見ご質問等はいかがか。

<委員>

葛飾区の教育委員会主体で実施している研修は、充実していると思っている。しかし、今の話で、コーディネーターの基礎研修、可能であればペアレントトレーニングの研修と、その大切さを否定する訳ではないが、何年間も研修を実施しており、かなり多くの教員が特別支援に関する研修を積んできている。働き方改革も言われている中で、特別支援教育も大事だが、それ以外の教育にも携わっている中で、有効に研修をするためには職層研修の中に上手に組み込んでいただけるとありがたい。

<事務局>

様々な先生方に、知っておいてほしい研修内容は多種多様ある。加えて、研修の今のあり方の中で、指導内容の工夫や実践例について、他の研修会でも活用して進めていく。すべて拡大という方向では難しい実態の中で、工夫していけるものは内容を調整していきたい。

<委員長>

それでは引き続き、議題の（３）令和６年度 葛飾区特別支援教育推進委員会について、事務局から説明願う。

（３）令和６年度 葛飾区特別支援教育推進委員会の年間予定について

<事務局>

資料４の令和６年度 葛飾区特別支援教育推進委員会の年間予定について、一括しての説明

<委員長>

資料４の報告について、ご意見ご質問等あればお願いしたい。（特になし）

それでは議題は以上となる。本日の委員会全体を通して、副委員長である聖徳大学の河村教授からご講評をいただきたい。副委員長よろしく申し上げます。

<副委員長>

大きく三点についてお話したい。一点目は就学支援に関して。まず知能検査の件数が減っていることで委員からご指摘があった。支援が必要だと考えられる、という程度のお子さんの支援内容については、事務局からいろいろな面から支援が考えられるとあった。しかし、関係する教職員の皆さん方に、アセスメントに基づいた支援について、意識啓発を一層図っていただく必要がある、という風に聞かせていただいた。また、アイリスシートの交付数が今年度大幅に減少しているデータが示された件については、そのことを踏まえて改善の方向を示していただいているが、その際、なぜ交付数が減っているのかという原因をきちんと分析しないといけないと思う。そういった面から利用者、主に保護者の方に、どのような考えを持って、出さなかったのか出せなかったのか、利用者目線に立った改善につなげていただくことが大事なことだと思う。

二点目は、知的障害の特別支援学級について。ここで二つお話したい。一点目は知的障害の学級に在籍する児童・生徒の通常学級との交流学习が、どのように行われているのか。今回あまりその内容については触れられていなかったが、適正な交流及び共同学習をいかに進めていくのかという視点から、その実態と改善の課題をしっかりと見ていかないといけない。今後、そのような面からも情報提供していただけると有難い。インクルーシブ教育の風潮や動向の中で知的障害のある生徒についても、可能な限り通常学級で一緒に学ぶことを推進していく行政的な流れはあるが、他方で、在籍するお子さんの教育的なニーズを考えたときに、通常学級での教科学習が理解できて参加しているのであれば、知的障害という診断がつかないはずである。そこには独自の教育的ニーズがあるはずなので、そこをきちんと見極めて対応を考えないと子どもの将来にとって不幸になりかねない。変なインクルーシブになりかねない。その点を十分検討していただけるとよいと思う。

また、それと関連して、指導内容の充実を図るという視点から、使用する教科書についての検討を進めるという記述があった。これも是非進めていただきたいと思うが、今話した点から文部科学省の検定済教科書の使用を義務付けるといような、押し付けをしてはいけないと私は思っている。まして、児童・生徒の知的な障害、理解力の実態を踏まえた教科書の選定を進めるべきだと思う。そういった点から、たとえば文部科学省の著作教科書、知的障害に対応した教科書があまり使われていないようだが、そういったものも参考にして、これをもう少し勧めていただくとよいと思う。

最後三点目に、自閉症・情緒障害に関係して、教員の専門性向上ということが課題として掲げられている。先ほど令和５年度の報告の中で、研修内容の見直しを図るとうたわれているが、どのような見直しをされるのか、今回の研修では、日高先生の自立活動の指導の観点を生かした教科指導という内容だったが、そこから一步二歩さらに発展させて、現場の先生方には困っている

ことが目の前にたくさんぶら下がっているはずなので、必ずしもそういった概念的な話だけではなくて、たとえばソーシャルスキルトレーニングの具体的な事象であるとか、療育の現場に自閉症の児童がたくさんいると思うが、教育の現場ではどうすればよいか、自閉症独自の言語やコミュニケーションに対して、児童をどのように支援していけばよいか、そういった具体的な支援における研修ニーズは非常に高い。日々困っているが、必ずしも専門的な勉強をしてきて免許を持っている方ばかりではない。現場の研修の中でそういった専門的な知識や技能を身につけてもらわないといけない。そういったことも含めて研修の充実を図っていただくとありがたいが、これは自閉症・情緒障害の学級担任ばかりではなくて、先ほど挙げた知的障害の学級関係者や、特別支援教室の担当の先生方もこういう具体的なことを知らないといけない。自立活動を行う上でも困っているのではないかと思うので、障害別の研修だけではなくて、例えばASDの児童の指導であるとか、困っている先生方が誰でも参加出来るように、また幼稚園とか保育園の先生方も困っている方がたくさんいらっしゃるの、そういう方も参加できるような形での研修を企画していただくと、現場ニーズに対応した研修につながっていくのではないかと思う。ご検討いただくとありがたい。

<委員長>

貴重なご意見ありがとうございます。それでは、本日ご用意した案件は以上だが、事務局から連絡事項等があればお願いしたい。

<事務局>

今日はありがとうございます。ご意見をもとに来年度の特別支援教育を進めさせていただきたい。本日はありがとうございます。

5 閉会

<委員長>

それでは、以上をもって、令和5年度第2回葛飾区特別支援教育推進委員会を終了とする。